

科目名	教育工学特講		
担当教員	篠原 文陽児		
対象学年	3年	クラス	51
講義室	S402	開講学期	春学期
曜日・時限	月5	単位区分	選択
授業形態	講義	単位数	2
受講対象	初等教育教員養成課程学校教育選修選択科目A、初等教育教員養成課程国際教育選修選択科目B、人間社会科学課程生涯学習専攻選択科目B		
備考			
ねらいと目標	<p>教育工学は、「科学教育」を起源とし、教育に関わるすべての要因を分析し統合化するシステムズ・アプローチを基本概念とする方法であり、内容である。方法としてはイノベーション研究が、内容としては特に授業研究が、それぞれ重要な役割を担う。本講義は、システムズ・アプローチを基本とする教育工学的な考え方のもとに、ユネスコによる国際共同研究「知識社会の高等教育及び教師教育改革」「ESDカリキュラム開発」及び「JICAモンゴル・プロジェクト」など活動と関連する具体的な映像や文献等を事例に、教育機関や授業に取り入れられ普及しつつあるマルチメディアやインターネット等ICTを活用する遠隔教育の基礎・基本について考察し、教師及び児童生徒等によって活用できる簡易な遠隔教育教材を制作する基礎的・基本的な知識と技能及びこれらを積極的に活用する意欲と態度を養うことをねらいとする。</p>		
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育工学の意味と意義 2. 行動科学と授業研究 3. 遠隔教育の基礎・基本 4. 簡易な遠隔教育教材の企画と制作 5. 協議 		
テキスト	特に指定しない。		
参考文献	<p>橋元良明(2011)「メディアと日本人-変わりゆく日常」岩波新書 鄭仁星・久保田賢一(2006)「遠隔教育とeラーニング」北大路書房 小澤徳太郎(2006)「スウェーデンに学ぶ『持続可能な社会』安全と安心の国づくりとは何か」朝日新聞社 後藤晃(2000)「イノベーションと日本経済」岩波新書 今井賢一(1993)「情報ネットワーク社会」岩波新書 R・M・Gagne and L・J・Briggs(1979)「Principles of Instructional Design—Second Edition—」Holt, Rinehart and Winston 中野照海編(1979)「教育工学」学習研究社</p>		
成績評価方法	<p>授業中に3回課すレポート課題(30%)、最終試験あるいは制作物等成果(70%)により、総合的に判断し、評価する。 なお、出席点については毎回の出席が大前提になる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点が加算されることはない。ただし、欠席は減点の対象となる。</p>		
授業スケジュール(展開計画)	回	内容	
	1	オリエンテーション—授業の目標と期待される成果—	
	2	教育工学の意味と意義(1)	
	3	教育工学の意味と意義(2)	
	4	行動科学の基礎	
	5	行動科学と授業の設計および評価	
	6	遠隔教育の意味と意義	
	7	遠隔教育の実際(1)	
	8	遠隔教育の実際(2)	
	9	演習(1) —遠隔教育メディアの企画(1)—	
	10	演習(2) —遠隔教育メディアの企画(2)—	
		演習(3)	

	11	—遠隔教育メディアの開発(1)—
	12	演習(4) —遠隔教育メディアの開発(2)—
	13	演習(5) —遠隔教育メディアの開発(3)—
	14	制作物等成果発表と協議
	15	遠隔教育の展望と期待
授業時間外における学習方法	<p>準備学習(予習、復習各2時間)</p> <p>(1)予習2時間は、前時での予告と授業計画を参照し、本時で扱われる事項(トピック)につき、教科書や配布資料等の要点及び疑問点を、既習事項や経験及び体験と関連させ組み合わせてまとめ、ノートに記述しておくこと。</p> <p>(2)復習2時間は、授業内容の各事項につき次時まで説明できるようにすること。特に、疑問点はノートに明瞭に記述し、次授業開始時に質問ができるようにしておくこと。</p>	
授業のキーワード	教育工学、教育革新、ICT、教師教育、授業研究、メディア、遠隔教育、e-Academy Media Station	
受講補足(履修制限等)		
学生へのメッセージ		
その他	<p>講義は、具体的な研究映像資料など事例と参考文献のほか、時宜を得た最新の報道等資料を、コンピュータ、プロジェクター等を使いながら、総合的かつ具体的に進める。演習は、本学に整備されつつある「わくわくスタジオ」(e-Academy Media Station)等の設備と機材などを活用する。</p>	